



二 中 の 旋 風

校訓：真実の一日、誠実の一日、充実の一日

令和8年度学校だより
八代市立第二中学校
令和8年8月28日
第5号 文責 楠本 功一

がんばろう二中、心を紡ぐ二学期に！

7月28日火曜日、午後4時27分、震度6強を記録するいきなりの大きな揺れにより、日常が、そしてふるさと八代の風景が一変しました。二中校区でも多くの建物が倒壊し、ライフラインが寸断されるなど、生徒、教職員の中にも大きな被害を受けた方が多くいらっしゃいます。被災されました皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧を願うばかりです。

発災二日後に、生徒の安否確認を行いました。幸いなことに大きな怪我をしたという報告はなく、全員の無事を確認することができました。ただ、物的な被害はもとより、精神的に大きな不安や恐怖を味わった生徒もたくさんいたと思います。

安心・安全メールでもお伝えしてきましたが、二中の校舎は教室棟には大きな損壊などはなく、教室や廊下等の机・椅子、道具類が倒れ散乱している状況でした。職員室棟は、事務室、職員室が棚や机、書庫などが倒れ、様々な事務用品が落ちたり移動したりしていて、復旧するのに多くの時間を要しました。しかし、先生方、協力してくれた生徒の頑張りで無事に片付け作業を終了することができました。



グラウンド南西側にあったプレハブの体育倉庫は大きく破壊していたため、夏休み中に取り壊され撤去されました。校舎の周りにはひび割れや陥没しているところが複数箇所あり、今後の余震で危険が想定されるところには立ち入り禁止のロープが張られています。

そして、何よりも大きく様相が変わっているのが体育館とその周辺です。発災直後から避難所として体育館を開放していますが、今でもまだ多くの方が避難所に身を寄せ生活されています。武道場には緊急にエアコンが設置され、新型コロナなどの感染症に罹患された方の看護場所になっています。トイレも使えなくなる可能性があったため、仮設トイレや移動式の車載トイレなども設置されました。教室棟の前には、洗濯乾燥機を6台積載した大型のトレーラーがとまっていて、避難者の方の生活を支援しています。グラウンドには給水車が水を必要としている方を支えています。様々な自治体からの支援職員の方も学校に入られています。

このような状況の中での二学期のスタートです。色々な制約が出てくることもあります。しかし、避難している方々とも心を一つにして、助け合いながら学校生活を送ってほしいと思います。

今年の教育スローガン、『心を磨き、紡ぐ』の真価が問われる二学期が始まります。





28日の地震発災直後から、二中の体育館が避難所になりました。夕方から深夜まで、次々に被災された方が体育館に避難してこられました。まだ、市役所の担当の方々も情報が錯綜していてどう運営していいのかわからない状況でした。そのような段階から、避難してきていた二中学生や本校OBの高校生が、受付



や水、食料品などの配給をすすんでやってくれました。

それから数日間、物資の搬入、水洗トイレの水汲みなど、有志の中学生と高校生が避難所運営の大きな力になってくれました。あの状況下で、皆さんの協力がなかったらどうなっていたらと思うています。

二中学生の優しさに感謝 ～心を磨いたボランティア活動～

した人達は、感謝の言葉だけをもらったわけではないと思います。極限状態の避難所で過ごす中で、ストレスや不安を抱えている方も多くいらっしゃると思います。心ない言葉を言われた生徒もいたようです。しかし、ボランティア活動に参加した人それぞれが、大きな学びをして心を磨くことができたと思います。協力してくれた皆さん本当にありがとうございました。

猛暑の避難所で懸命にボランティアに取り組む二中学生を見て、本当に胸が熱くなりました。

ある避難者の方が、「第二中学校の生徒は本当に素晴らしいですね。私は日本人に生まれてよかったと心から思います。」と涙ぐみながら話してくださいました。

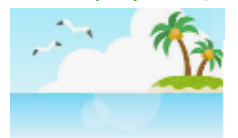
しかし、今回ボランティアに参加



自分事になりますが、私の家も地震後に井戸水が出なくなり、今も断水が続いています。これまで、文字どおり「湯水のごとく」それほど節水も気にかけず水を使っていました。しかし、いまは毎朝の水くみから一日がスタートし、入浴も洗濯もできない日々で、いったいいつになったら断水を解消できるのか目処も立っていません。

今回の地震を経験して改めて感じたこと、それは当たり前であることのありがたさです。朝起きて蛇口をひねると水が出るのが当たり前でした。しかし、一滴の水も出なくなって初めて、本当に水はありがたく、生活には絶対欠かせないものであることを痛感しています。これはもちろん水に限ったことではなく、電気もガスも同じことでしょう。それ以外にも、お店に行って買い物ができること、仕事ができること、学校で友達と話したり、勉強したり、部活や趣味に打ち込んだりすることもそうかもしれません。だからこそ、日常を当たり前で過ごせる幸せを忘れず、いま自分ができていることに精一杯取り組むことを心がけていきたいと思うようになりました。

皆さんの中には、自分の家や保護者の方の職場、親戚の方などが、大きな被害を受けたという人もいると思います。しかし、昨年星田先生が話されたメッセージ、「明けない夜はない」という言葉を胸に、一歩ずつ前に進んでいきましょう。同じ教室で過ごす仲間の一人一人が、今回の地震で受けた被害や心の不安は様々です。そのことを忘れず、一日も早く日常を取り戻すために、心を紡いでいく二学期にしていきたいと思っています。



お知らせ



○今後の学校運営について

現在第二中学校の体育館が避難所として継続運営されています。二中校区は大変被害が大きく、被災された方もたくさんいらっしゃいます。二学期が始まり、これから文化祭や合唱コンクールなどの行事も予定されていますが、避難所の機能を他に移転する日程はまったく未定ということです。これから何ができるのか、どんなやり方ならいいのか、生徒と一緒に知恵とアイデアを出し合いながら決定していきたいと思っています。また、これからも緊急連絡など、安心・安全メールでのお知らせをさせていただきますので、こまめな確認をお願いします。